

総務文教委員会会議録

1. 開催年月日

平成30年5月28日 開会 14時00分 閉会 16時15分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

西村 慎次郎 宮地 俊則 妹尾 文彦 山下 憲雄
西田 久志 三輪 順治 佐藤 豊

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 副議長 惣台 己吉
(2) 事務局職員 事務局長 川田 純士 事務局次長 藤原 靖和
主査 柳本 兼志

6. 傍聴者

報道 2名

7. 発言の概要

委員長（西村慎次郎君） それでは、時間になりましたので、ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

委員長（西村慎次郎君） 本日の議題は、1、所管事務調査についてから4、その他でございます。

〈所管事務調査について〉

委員長（西村慎次郎君） 初めに、1、所管事務調査についてを議題といたします。

前回の委員会におきまして、次回の総務文教委員会で市内小・中学校への現地視察に当たり質問事項をまとめることと決定していました。配付しています資料は、事前に委員の皆様から質問事項を事務局に寄せていただいたものであります。この資料をもとに質問事項をまとめたと思います。皆様のご意見を求めます。資料のほうは、次第の後ろへ、前回の委員会で出た質問事項のご意見とあとそれ以降事務局へ各委員の方から提出していただいた資料、ホッチキス留めの資料3ページ分があります。

委員（三輪順治君） ネットいきますか事務局のほうからメールでいただいた二年前か三年前か、当初総務文教委員会で各学校に対するアンケート等結果をいただきました。コピーしたらかなりの枚数になったんですが、字もちっちゃくて読みにくかったんですが、大きくは施設整備状況の調査というのといじめに関する調査それから生活環境調査の3つでやったというふうに覚えてます。それは全小・中学校、13校と5校の18校の回答が返って、一読致しました。今回改めて所管事務という形で調査するに当たりまして、前回の中身、項目を踏まえて精査する必要があると思いますが、私の所感ではこの中から再度追跡をしていかないけんもんが何点かありました。それと、今回各委員から、多分4名の委員からあらかじめ質問が入っておりますんで照らし合わせたところ、基本的にはよく似た項目があります。したがって、これについてはまとめていけばいいと思うんですが、二、三分時間いただければ前回のアンケートの結果の中から関連するものを上げたいんですが委員長よろしいでしょうか。続けてもらって。

委員長（西村慎次郎君） はい、今回質問。出すとすると前回の委員会の中であった執行部への質疑事項のうちの3と4というところを中心に質疑はするという、その範囲内で前回の参考にとということになるかと思います。

委員（三輪順治君） じゃあ、その範囲内で。

委員長（西村慎次郎君） はい、お願いいたします。

委員（三輪順治君） まず、3点の大きな項目がありましたが、1点目の施設整備状況の調査の中で、施設の格差、これは今回問題にしなくていいと思いますが、次の複式学級の学校生活における不便性といいますか学力の問題、これについては回答の中でゆゆしきといいますか懸念のある回答があります。例えば、某小学校では少人数だと体育科の競技をするには人数不足で困ってるとか、あるいは1、2年、3、4年、5、6年、3つにして完全複式学級だけでも、非常勤講師の確保、それからわたりの授業の問題、これは教育環境の問題に属すと思います。だから、同じような悩みが小規模学校にも見られているようです。結局は、この方式だと学年ごとに学習内容を系統的、段階的に積み上げていくことができにくい

ということを現場の先生がおっしゃるとるのが1点。

それから、職員の職場環境の違いについても、担任している児童数の多寡により公務への支障も相当格差が出てきます。また、日直勤務も出てくるという訴えがございますので、引き続き項目を入れたらどうかということです。

それからあと、ICTの問題はリテラシー、いろいろ問題がありますが、これは非常に肯定的な分野の回答が大きかったですね。ICT機器を利用すると学習への関心また基礎学力の定着に効果があると考えているというような代表的な回答項目になっております。

あと、環境ボランティア等がありますが、大きくは1点目の施設整備については二、三点を上げていきたいと思えます。

2点目は、大きな、いじめについてはこれは今回は調査の趣旨が違いますので外していきたいというふうに私は思っています。

それから、生活環境では、子供たちの生活改善の問題と対応という中で学校運営上においてとか教職員の立場からとか保護者、PTAに対してとか議会を含めて行政対応ということで上がっておりますけれども、これも非常に大きなウエートを占めておる教育課題でございまして、前向きな答えが当時ありましたけれども、いばらっ子生活リズム向上プロジェクトの推進とかそういうようなファジーな書き方がありますので、引き続きこれは追跡をする必要があるだろうと思っています。

あとまた、塾通い、習い事など、児童の学習にかかわる格差是正、これは経済格差とも関係するんでしょうけど、それがあると思えます。

それから、学校医の先生が歯科とかなんやかんやいらっしゃるんですけども、この関連も教育環境、生活環境の面では学校の生活以外に家庭生活の基本をもとに基本的な生活習慣の確立という観点から追跡を行う必要があるだろうというふうに思っています。

今のが小学校でございますが、中学校も概ね同じような傾向がございますので、今回アンケートを組むに当たってはそういう設計を過去を参考に今回追加し、新たにICT或いは教育環境の中で反映させていくべきだろうと私は考えております。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） 今日資料として皆さんありました。

委員（三輪順治君） ないじゃろ。ある。

委員長（西村慎次郎君） 前回の26年度の……。

委員（三輪順治君） メールだけじゃろ。

委員長（西村慎次郎君） これなかったんで、一部しかないんで細かく把握できてないんですが、その声、書いてある内容で今回のテーマと関係があるところについては盛り込んでいってはどうかというところでありましたがいかがいたしましょうか。今日お配りしてる質

問事項案の内容でも構いません。ご意見があればお願いいたします。

委員（山下憲雄君） 適切なことであるかどうかわかりませんが、ICT化についてという質問がいろいろと寄せられてるんですが、私たちの時代にはもちろんそういうことなかったわけですけども、その時代の要するにデジタル、美馬でしたか西条市やったか、デジタルとアナログのバランス、例えば辞書を引いて調べたり、英語の辞書とか国語の辞典とか、そういったことが教育の中で重要だと思いますけれども、その辺の教育上のバランス、そういうことを全くICT、ICTに埋もれてしまおうとするのか、そこら辺の先生方のお考えなりを確認したいなと思います。

委員長（西村慎次郎君） デジタルとアナログの使い分け、また授業でのバランスっていうものをどのように考えてやられてるかということ。

新たにご意見もあろうかと思うんですけど、まず皆さんから事前に出されていただいたのを優先的に整理して、あと追加でこれもというのは決めていけたらなと思うんですが、余り数多くというか広範囲にわたってのお願いになってくると大変学校側にも負担がかかると思ってますのである程度はテーマを絞っていけたらなというふうには思っております。あと何校か現地へ行く話もしますが、そこでメインは当然事前の質疑応答、質問事項のお話になろうかと思うんですが、時間が許せばその場で追加で質問したいんだけどというので盛り込んでいけたらなとは思っております。

1つの大きなテーマとしてはICTの活用状況というかICTというものをテーマに質問をまとめていきたいと思ってます。あとは、生活状況とかそういったキーワードで何か学校側への質問をしたい場合はそこへ入れるかなということで、ある程度集約していきたいなとは思っていますがいかがでしょうか。

委員（三輪順治君） A4判で3枚もんでざっと見たんですが、最初のページにあるのがICTの現状とそれから今後の活用ということでありますね。あと校務支援がありますね。校務支援も関連して学校のICT化には避けて通れない課題なんだけど、逆に校務支援を入れることによってマイナスの面もあろうかと思えます。ここは、特にそういう面はセキュリティーといいますか個人情報の確保といった観点で、子供たちの活用、現場においてICTの影を踏むことはないと思えますけど、学校管理上ICTはどうしても個人の成績管理とか或いは生活、道徳教育含めて相当活用されると思えますが、要はデータ管理であるとか或いは情報交換とか或いはいい意味での個人カルテの小学校から中学校への引き渡しとか、幼稚園も含まれますですね。そういうもんがありますんですけど、いわゆる影の部分であるセキュリティーの確保をどうするかというのは是非入れていただきたいと思えます。

大きくは現状と活用の中身、1ページにあるように細かくものを固定してあるかないかというのを聞くかどうかというのはやや私は疑問なんですけども、要するに数年前から教育委

員会におきましてもITの導入がありますけれども、要は活用の仕方だと思います。ハードはあってもITをうまく活用しないと学習規律の向上にも役立てないだろうのでこの1ページで言えば4番とかかわってくるし、あと5番の小・中連携、小・小連携もIT活用はこれからAIを含むことになってくるのでこれは省いてはいけない点かなというように思っています。

それから、2ページ目でも同じようなことが言えますけれども、特に学校現場で一番気になるのは、先生方がこういうことないでしょうけども情報セキュリティーポリシーを知らないですから、USBとかCDを学校の現場で要するに家へ持って帰って仕事をするのを皆さんのんならこんなこと聞かなくていいんだけど、要するに端末に何も残らない状態で帰って教室に来て立ち上げてクラウドからデータ取って仕事するならいいんですけども、そうでない場合は個人、先生が家へ持ち帰る場合、方法論としては外部媒体しかないんで、よく俗に問題になるのがそういう外部媒体の管理、これらを現場の井原市の情報セキュリティーポリシーの具体がどういうふうに運用されてるのか、管理の実態というのは我々も知っとかにゃいけんし、もし問題になったときに社会的な問題になり得るので、事前に管理、調査をしていく必要があるだろうというふうに思っています。

それから、IT教材の満足度っていう点で、デジタル教科書とかあとソフト面の内容がありますけれども、考える力、学ぶ力、つまりアナログからデジタルに変わっても多分考える力はそうそううまく指導することによって変わらないと思うんですけども、実際にITに頼ってしまうと例えば辞書を例にとると漢和辞典とか英和辞典を引く頻度が少なくなりますね。単にタブレットで検索すると。そうすると、私たちの学生時代は辞書がぼろぼろになるぐらいまで引く人もおったし全く引かん子もおったけど、デジタルだったら反復能力とか学習能力というのが本当に入ってくるのか、英語の単語でいうたら10遍も20遍も書いて新しい単語覚えて、今、僕たちの時代やりました。今でもやってる思うんだけど、そういう点でITの本当の学習面における効果というのをどうやって測定すればいいのかというのは現場でも試行錯誤されとると思いますが、数値化できないところで学校の先生の思いを聞いてあげることは必要じゃないかなと。井原市ができることというのは限りがありますけれど、できるだけそういう環境を整えてあげることによって現場の思いが成績とか学習態度や規律につながっていくと、家庭との連携を含めてそういうふうに思っています。

それから、先ほど言うた複式学級の関係ですね。これもフォローする意味で、今複式学級行ってるのは多分二、三校だと思えますけれども、わかりませんが、私が議員になったときに井原市内のとあるところで実際に現場見ましたけども、非常に難しい教えにくさがあったというふうに私は感じてます。アットホームじゃあるんですけど。そういう問題。

それから、2ページ目の下のほうでは、同じこと書いてますんでまとめれば同じようにな

と思いますが、ここは勤務状況のことを書かれてるんですけども、勤務状況は今回直接調査の対象になっておりませんのでこの勤務状況については各個人で一般質問なりその他の関係で調べられたらどうかというところでこれは外されてもええかなというような気がします。ただ、複式学級のこと、ここも書いてありますが、ICTとは直接関係ないですけども生活環境、学習環境の環境整備という面でICTの活用というのは避けて通れない面もありますし、地域とのかかわりでいえば家庭における活用、僕は井原放送のこと考えたんですが、井原放送が今井原市にありまして、活用されてない現状をどう火をつけるかというのがあります。そういう点を先生方の思いを聞いて、例えばALT、僕も議会で質問しましたが、ALTの方が今何名もいらっしゃいますけどもその先生が補講的に井原放送のチャンネルのある時間帯を利用してテレビへ映ってもらうと、ああ、あの先生やちゅうて、今日教えてもらった先生やというて興味深く学べるんじゃないかというふうに思います。そういう形で井原放送のいわゆる有線テレビ、井原市ならではのICT活用の双方向性を使った活用策について、先生の現場の思いというのを聞いてみたいなのというでもあります。

それから、3ページ目はダブってますが、非常に今の1、2ページともかなり集約されますが、ただこの中では学習技術に絡ませて岡山県の学習スタンダード、指導の学習スタンダードありますね。基礎学力を確立する点について現場が十分と感じるかどうかというのはお聞きになるのは非常にいいと思います。それから、その他プログラミングとかについても書いてありますが、私自身がプログラミングの中身わかりませんのでこれは私は言う内容を持ち合わせておりません。

それからあと、テーマファイルということで地域社会の中での教材とか連携というのが書かれておりますけれども、関連事項として私は取り上げるべきだというふうに思ってます。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） 三輪委員よりご意見をいただきました。

ICTに関してということで、先ほどの3ページ物の分でいくと、1枚目でいくと3、4、5に相当する部分であるとか、2ページ目でいくとセキュリティー関係、あとICT教材の満足度、あとは井原放送の活用といったところ、また複式学級へのICTの活用といった部分、それから3ページ目でいくと学習規律の徹底ですね。岡山県の学習指導のスタンダードの辺の質問であるとか、テーマ外になるんだけど郷土愛の醸成とか地域社会との連携の部分についての質問を入れてはどうかということでありました。

委員（妹尾文彦君） 私も三輪委員さんが言われているような内容とこの内容についてはその感じでいいと思うんですけど、いろいろたくさん同じようなことになってるんでそこは集約して一つにまとめればいいと思うんですけど、そこ今回の範囲外になっている部分を入れるかどうかというのをここでまずは話し合ったほうがいいかなと思います。最初の今の

三輪委員が言われたこの3枚綴りでいくと、私が思うには、2枚目の上の段は、一番下、少子化、経済環境の変化に伴う地元を含む教育支援策についてというのは入れるかどうかを考えたほうがいいんじゃないかと、今回の範囲ではないかなと。そして、その下の分でいくと、一番下の2つですかね、市外の進学率が高いようであるが、教育現場としてどのように感じているか、というのを入れるかどうかとか、9番目の市内幼・小・中学校の教職員の勤務状況も含めてはどうか、というのを入れるかどうかというのを、あと最後のテーマ外って書いてあった分を入れるかどうか、このあたりを入れるかどうかの議論をして、他のテーマに関しては集約して、他のテーマといいますか他の質問に関しては集約して質問事項にまとめていただければそれでいいんじゃないかと思うんですけれども。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） じゃあ、それ以外は集約して入れていけばいいんじゃないかということですか。

委員（妹尾文彦君） はい。

委員長（西村慎次郎君） ボリューム感も考えながら集約はしていかないといけないのかなど。

1 ページ目の1とか2とかというのはどうしましょう。

今の現状を知る上で、学校ごとにどれくらい整備状況の格差があるのかどうか把握はしてないんですが、今の整備状況の確認ともしっかりというのがあったほうがいいというご意見があれば何うというのが大きい1番です。

2番目は、実際にそれをどのように活用されてるかっていう活用状況を確認する質問にはなってるんですが、このあたりはどうしましょうか。今回そこ。

委員（三輪順治君） (1)の①から具体的な機器の整備状況については教育委員会に聞けばわかるので、あえて学校現場に聞かなくても私はいいと思います。それを活用するかどうか2番について、これは聞かないとわからないんで、1番は本体のほうへ聞いて各学校の照会をやめると、2番はお聞きするというふうなことでいいと思います。

委員長（西村慎次郎君） 他の方もよろしいですか。

委員（佐藤 豊君） それでいいと思います。

それから、2ページ目のぽつの下から3番目の児童・生徒一人ひとりと日常のアドバイス、激励、注意事項などについて、接している時間は確保できていますかということで、これは資料一覧のほうの3の市内小・中学校における学力向上と生活改善に向けた取り組みという中に僕は含まれる項目になるんじゃないかと思うんです。この間も言いましたけども、教育環境の1番は先生だということなんで、先生の生徒に対する接し方によってやる気スイッチが出てきたり嫌になるといったようなことが大いに見受けられるわけなんで、そういっ

た意味で先生がいかにかに日常、学校生活の中に子供と接して子供に激励やアドバイスやそういった教育面での支援ができてきているのかということもある意味一面でいえば人間的な取り組みとして一番大切なことじゃないかなというふうには私は思うんで、そのことは資料一覧の3の中に含めての取り組みとして考えてもいいんじゃないかというふうには思います。あとは、妹尾委員も言われたように、大体似たようなことがあるので、そういうことは一つにまとめて代用していけばいいんじゃないかというふうには思います。

委員（妹尾文彦君） 先ほどの1枚目の1番の機器を入れる入れないという話は、どちらでもいいとは思いますが、取ったほうがいいのかというのであれば取ってもいいとは思いますが。ただ、(2)番の不足するものとかというのは聞かれたほうがいいのかというふうには思うんですけども。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） 1の(2)は各学校へ聞いてもいいんじゃないかと。

委員（妹尾文彦君） はい。

委員長（西村慎次郎君） この(2)を大きい2番の(4)に入れても、その下側で聞いてもいいかもしれないです。

なかなかまとめるには非常に難しい。

委員（三輪順治君） 今頭からいくようたけえ頭からいきやあええが。

委員長（西村慎次郎君） 頭からいきましょうか。

委員（三輪順治君） そうせにやあまとまらん。

委員長（西村慎次郎君） じゃあ、1つずつ3枚物の1枚目から。順番にいきますね。

1の(1)の整備状況については教育委員会へ確認してみましようということで、1の(2)については大きい2の活用状況についての質問の中に含めて、こういう機器があったら授業等で活用できるんじゃないかというような形で質問を中に入れるということで、大きい2のICTの活用状況については確認するというので、(1)、(2)ぐらいでいい、(3)までいきましょうか。どういう理由、目的で使うかというところまで書いてます。

大きい3番、校務支援システムの導入による効果についてということで、2年前に導入されてるこのシステムの利用が1年半、2年近く使われてますのでそれに対する効果、評価また改善要望というものを聞くようにしておりますが、セキュリティー管理のところをここに含めて確認するかどうかというのはあるんですが、全体で大きく1個項目を設ける手もあるかなとは思ってますが、そこら辺はあと調整は必要かと思いますが、一応校務支援システムの導入による効果については確認するというのでよろしいですか。

委員（三輪順治君） はい。

委員長（西村慎次郎君） 4つ目の教職員のICTの活用レベルということで、細かい括

弧内をどこまで聞くかがあるんですが、多分個人個人で教職員のICT活用レベルの差はあるんだろうなというふうに感じてるところではあるんですが、どういう回答をいただけるかわかりませんが、どうでしょうか。確認する方向でよろしいですか。

委員（山下憲雄君） 確認したらいいと思いますし、支援員という人がおられるケースもあると思いますので、その辺の状況を確認したらいいと思います。

委員長（西村慎次郎君） ICT支援員は環境整備に対していろいろ。

委員（三輪順治君） これはソフト聞いとんじゃろ、ソフト。

副委員長（宮地俊則君） アンケートというてこれは先に送るん。誰が……。

委員（山下憲雄君） このICTの支援員ということでしょ。

委員長（西村慎次郎君） それは各教職員、先生方がICT機器を使ってどれぐらい授業できてるとか。

委員（山下憲雄君） できてるか。先生方が不足したりレベルが低かったら支援員がおってフォローされるということですね。

委員（三輪順治君） 支援員はそこはすまあ。ICT支援員の活用の中身がわからないんですが、僕の予想ではICTが教育の内容まで、活用の方法までを、技術的なサポートはあるんでしょうけど、そこはタッチできないんじゃない、ICT支援員そのものは。心理カウンセラーみたいな形じゃないんで、あくまでハードウェアと環境支援のための支援なんで、ここはソフト聞いている思うんですよ、活用で。切り離れたほうがええんじゃないか。

委員（山下憲雄君） 技術、テクニカル。

委員長（西村慎次郎君） 副委員長は質問あった、誰に回答していただくかということなんですけど。

副委員長（宮地俊則君） 先般というかずっとこの会議してる委員会の中で、窓口は校長先生というふうに、行って直にお話聞くのだと思うんですけど、ここまで具体的になるとそれはむしろこういったICTに担当教諭というのがいるのかどうかは別としまして、そういう校長先生よりそちらへ伺ったほうが実態の話が聞けるんじゃないかなという気もしてならないんですけど、そこら辺は、その都度対象を、これは今はアンケートですから、学校に送る分ですから校長先生がその学校の中で一番長けてる、ICTに精通しておられる先生に回答してくれというふうには依頼されるであろうとは想像できるんですけど、そこら辺前提をもう一度確認しておきたいなと思います。

委員長（西村慎次郎君） 流れ的には学校側、校長先生を窓口をお願いはして、アンケートの回答としては多分今想定されてるように情報推進委員みたいな方が各学校に先生いらっしやると思うんですよね。どういう名前かはわかりませんが、そういう方が学校内の今の情報管理化に関しての一定の把握はされてるとは思うんでその方に回答は書いていただくん

ですが、我々が現地へ行って話をするのは多分校長先生もしくは教頭先生になるんじゃないかなと、教務主任、前は校長先生がほとんどでした。そういう形になるんで細かいそこのヒアリングというのはできないだろうなという想定はされるんですが、アンケートの結果は担当の教諭からもらえる可能性はあるかなと思っています。なんで、現地に行つてはここまで細かい内容を全て確認するというよりかは、大きな取り組みの概要を確認する形で現地での話は済むんだろうなというふうには思います。

副委員長（宮地俊則君） わかりました。

委員（三輪順治君） 今回の4番の質問入れりゃええんですが、聞き方としてこの4番の1、2、3で聞くと誰が書くのかなとかかというんがあるんで、一つは4番は大きく2つに分けて、一つ、御校でのICTリーダー、教育リーダーはいらっしゃいますかと。そのいらっしゃる的同时にそういったICT活用の基本方針がありますかというのがまず一点。それから、2番目としてそれに基づいて皆さんそれぞれ教諭の方が1、2、3みたいな形で何かお取り組みがある現状はどうかというのは聞くのは非常に校長先生も参考になるし、学校としても書きやすいというふうに思います。入れてもらやいいと思います。情報推進委員は言われたとおり。

委員長（西村慎次郎君） 名前は忘れましたが、いらっしゃる。情報部会というのが多分作られてるんですよ。

委員（三輪順治君） ああ、そうですか。

委員長（西村慎次郎君） 市内、教育委員会で。そこへ各学校の先生が集まって協議されるはずなんですよ。

委員（三輪順治君） 要らんこと言いました。わかりました。

委員長（西村慎次郎君） 大きい4番も質問事項には入れて、質問の書き方については工夫させていただきます。

5番目です。小・中の連携、小・小の連携ということで、ICTを活用してというところがどこまで進んでるかというのがありますが、今後先ほどの校務支援システムとかの情報をもっと小・中の連携の中に組み込んでいとか、小・小の連携、これ実際に物理的に何をされてるかどうかもわからないんですが、小・小の連携にもICTの活用が見込めるかなという個人的には思つて、ここの1ページ目のアンケート私書いているんですけども、入れております。

委員（三輪順治君） 委員長、入れましょう。

委員長（西村慎次郎君） 5番入れといてよろしいでしょうか。

委員（三輪順治君） はい、どうぞ。

委員長（西村慎次郎君） では、2ページ目のほうです。

1つ目のICTの活用については、先ほどの1ページ目の大きい2番の話とダブると思うのでその中で決めたいと思います。

それから、情報セキュリティの確保ということで、これについても各学校でそれぞれ取り扱いが違ふといけんだらうなと思っはいるんですけど、教育委員会からと思ったりもするんですが、そのあたり感覚を聞いてみますか。

委員（三輪順治君） いやいや、それは運用じゃけえな。

委員長（西村慎次郎君） セキュリティーポリシー自体を、市のセキュリティポリシーを学校に適用されてるのか、教育委員会は教育委員会で教育用のセキュリティポリシーを使われているのか。

委員（三輪順治君） いや、それ、ダブルスタンダードじゃなかろう、シングルじゃろう。そりゃ……。

委員長（西村慎次郎君） 他市は多いですよ。

委員（三輪順治君） 教育。

委員長（西村慎次郎君） 市としてのセキュリティポリシーを踏まえてなんですけどね。

委員（三輪順治君） 各論の中じゃな。

委員長（西村慎次郎君） 各論の中に学校としての追記せにゃいけないところがあるんで、追加で。

委員（三輪順治君） そりゃ、公表してもええもん。

委員長（西村慎次郎君） 公表はされてないと。どういうその辺の市として今そういったセキュリティポリシーを定めてそれに準じた運用をしてるという回答ぐらいしか得られないと思うんですけど。

委員（三輪順治君） これ、実は年金問題でもあったように、委託会社が財産信託して個人情報非常に曖昧な管理の実態が国も含めてあるんです。僕は心配しようるのは、今言ったように、セキュリティポリシーそのものを井原市は公表されてないようなんです。契約書の中には多分セキュリティポリシーを遵守せえと書いてある。となると、わかりませんが、井原市の情報セキュリティの考え方の基本というのは、考え方の基本方針というのは出してええ思うん。格納の実施手順とか格納は秘匿すべき内容ですからこれは公表されてなくてもいいと思うんだけど、でも、考え方としてUSBやCDは現場だけでなくこの教育一般事務についても言えることなんです。僕らが前現役のときにやりようたのは、言うちやあいけません、家へ持って帰ってどうしてもせにゃいけん仕事がある。そうすると、USBで、悪いけど課長持って帰るで言うて持って帰って仕事する、それは許可を得ていく。それから、厳重管理する。そういうルールがあって、それは教諭に置き換えたら、仮にあつ

たとしてもかばんから絶対目を離さない、途中でパチンコ屋も寄らん、飲み屋も寄らん、そうやってやる運用を確認しとかんといけんのんで、じゃあ今外部媒体に情報が入って持ち出せるんかどうかもわからないんですよ、ポリシーがないから、わからんから。そこのところがもし曖昧じゃったらこの問題はいつまでも、本会議で聞いてもええんじゃけど、一応今回現場にアンケートするので、校長先生にしても、責任者というのは校長先生なんです、或いは教育委員会、そうすると、もし何か個人の、成績も大変なんだけど、個人情報を含めて大変なことが出たら大ごとになるんで、それは厳重に管理されて、ここまでは出せるけどここまでは出せれんとか、わかりませんよ、これは中で決めてもらやええんだけど、要はルールとしてそういうのがあるかどうかだけでもええんです、聞いてもらえば。だから、教育委員会に聞かれても結構と思います、現場行かんでも。それも要らんこと言うなというんじゃたら聞くことはありません。

委員長（西村慎次郎君） どこまでの回答がいただけるか……。

委員（三輪順治君） わからんで、教育委員会でもいいです。

委員長（西村慎次郎君） 十分セキュリティーには厳重に。

副委員長（宮地俊則君） 今のこの情報セキュリティーに関しては、今も話も出てましたように、現場で聞くまでもないというたらおかしいんですけど、厳しい教育委員会の指導のもとで各学校やっとするはずなんですよ、やってなきやいけないわけなんで、これを聞くんだったらさっき言われたように一般質問でも本会議でいいですし、委員会として聞くんであれば教育委員会だろうなど、現場よりも、何か非常に学校に聞かれてもそりゃ教育委員会に一つのマニュアルがありますからそれに聞いてくださいということになりゃしないかなと思いますので、そりゃ各学校に行き行って聞くよりも教育委員会に聞くべきことだと僕は思います。聞くならば。

委員長（西村慎次郎君） どこまで具体的な回答をいただけるかわかりませんが、教育委員会へ今のセキュリティーの管理についての今の状況を確認するっていう方向でよろしいですか。

委員（三輪順治君） はい。

委員長（西村慎次郎君） それから、3番目のぼつです。ICT教材の満足度と児童・生徒への学力（考える力、学ぶ力、生きる力）の測定指標ていった。ここのあたりどうですか。

委員（三輪順治君） ここのところ僕が全部考えたやつですけど、これは測定のしようがないから外してもらっていいですか。

委員長（西村慎次郎君） よろしいですか。

委員（三輪順治君） これは思うに理想的なんだけど、要は最終的には学力じゃなくて生

きる力というか考える力につながっていかなあかんで、こんなのかなか答え出ないと思いますんで、僕は書いた本人じゃけど抹消してください。

委員長（西村慎次郎君） 今回の質問事項からは外させていただきます。

それから、その次、インターネットの活用また現場や家庭における井原放送活用の視点ということで、先ほど三輪委員からも説明がありましたが、これはいかがでしょうか。

委員（三輪順治君） 補足させてもらおうかな。

今井原放送は僕も余り見んけど昼間ほとんどあれが流れとんです、コマーシャルが、ほとんどよう知りませんよ。僕がつけたら大体コマーシャルが流れとる。その例えば1時間ぐらい借りて、教育委員会が借り上げて、井原放送も経営があるでしょうけど、もし借り上げて、子供たちが学校から帰ってくる3時とか4時とか5時とか、6時からニュースが始まりますけども、例えば1時間とか借りて理科とか色がつく科学、理科とか或いは英語とか目で見ると、色が、そういうふうなとこへ使えば、今デジタル化されとる画像が手元で見られたら学校の学習意欲にもつながるかなと、宿題なんか放り投げて遊びに大体の子は行くけえ、ただテレビで今日出たALTの先生が出るんじゃということになりゃその日は楽しみにするじやろうし、それから理科で色がつく実験なんかをした場合に学校でしか使えませんが、それは、家でできないから、再現が。だから、それをどっかの教室借りて井原放送取材に来てもらうて、お金払わにゃいけんけど、そういうのを流して、例えば水素の発生であるとか、いろんな形で使える思うて、井原放送。そういう井原市ならではの多分取り組みじゃ思うんで、僕は、補足しましたけど、井原放送を双方向使ってやれば答えも出せるんです。ABCじゃという問いも。ソフトの問題があるけど、井原放送の。そりゃこれからお互いに協議する中で今あるデジタル化、お知らせくだけじゃのうて井原放送を教育の現場にも、或いは今日は言わんけど生涯学習の場でも使えるんで、当面テストパターンとして教育の場、実感として掴んでいくと、これもセキュリティーを確保しながらいくといいかなと、そういう意味ですが補足させていただきます。まだ全然そんな話、発想もない、どこも。

委員（妹尾文彦君） アイデアとしては非常にいいアイデアだと思うんですけど、このアンケートの中に入れてどういう回答を求めるといふかそこが難しいかなと。

委員（三輪順治君） あくまでも現場への聞き取りなんで、もしそういうニーズが高ければ議会としても市長に対して取り組んでみてといふか検討、研究してくれといふことは言えると思う。全くないのに勝手にうちが想定だけしてやるよりも足場を固めたほうがええんで、あえてしとるんです。

委員長（西村慎次郎君） 提言書とか提案の中にこの辺の提案を……。

委員（三輪順治君） そうそうそう、数字を踏まえて、そうそうそう。

委員長（西村慎次郎君） 含められる可能性があるんじゃないかというようなことです

か。

委員（三輪順治君） そりゃ僕より優秀な人ばあじゃけえ学校は、もっといいアイデア出ると思う。

委員長（西村慎次郎君） 井原放送をとられてない方もいらっしゃるんで、そこら辺が平等性が確保できるかなというのはあるんですけど。

委員（三輪順治君） 学校のを使やええが、そしたら、テレビ、放課後児童クラブで。

委員長（西村慎次郎君） 一つの案としてはあるかなと。

委員（三輪順治君） オンデマンドが一番ええんじゃけどね、オンデマンド。オンデマンドで何時でも見られるようにしたらええんじゃけど、設備の問題が、ソフトと。

委員長（西村慎次郎君） どうでしょうか、質問の中に、多分この項目だけより補足説明を書かないと学校側は回答に困るだろうと。

委員（三輪順治君） 例えばの例で補足します。イメージわかんない。ALTなんかわかりやすいか思うんです、外国の方がね、英会話されとるわけでしょう。もう一回繰り返してやると、自分が英語、そりゃ妹尾先生がおってじゃけえ、多分繰り返すことが大切でしょう。遊び心。

委員長（西村慎次郎君） タブレットをうまく活用してという方向に行くんかなとは思ったりは。

委員（三輪順治君） そやね、最後はね。

委員長（西村慎次郎君） どうしましょう。とりあえず……。

副委員長（宮地俊則君） 私は、先ほど妹尾委員が言われたように、またアイデアとしてはおもしろいかもしれませんが、ICTの今回の聞き取り調査行くのに焦点がぼけると思っていますので、シンプルにしたほうがいいと思いますんで、外していったほうがいいと思いますね、これは。余りあれもこれもというと焦点がどうもぼけてしまいそうな気がしまして、そんな先生も時間とれないと思うんですよ、いっぱいいっぱい。

委員（三輪順治君） 意味が違う。副委員長に誤解されとる。学校の現場の方の労力をどうのこうのということじゃなくて、子供たちにICTを活用してより勉強に興味を持ち考える力を育てていくためのツールとして今井原ならではのICTを活用した方法を言ようるんですから、全くかけ離れたとかでなくて近未来的な現実の活用方法の一例ですよ。井原放送は確かにお買い物をするとか交通支援とかいろいろな方法がこれからも多分あると思います、分野的に。しかしながら、全くそういう発想がないというか情報化施策がないんで、井原放送との連携が余り、わかりやすい教育じゃったら若いお母さん方、保護者の方々がわかりやすいんでこっから取り組めば井原放送に対する何ちゅうか認知度というか関心度も高まってくるし、子供はほっときゃ12チャンネルある時間帯、オンデマンド入れてもええけ

ど、やって、ちゃんとキーパッド持ってやるとかということになれば、これは井原ならではのICT活用なんです。多分例がないんで僕言ようことはようわかってもらえるかわからんけど、要はテレビが身近にある存在として、しかも井原放送もスタッフの方々も或いは先生方も教育現場の、今例えば理科とか英語を例にとりましたけどこれは歴史でもええんですよ、歴史資料、史跡、何でもええんです。だから、負荷はかかるにしても例えばいろんな意味で井原放送を活用せにゃいけんという意味なんで、余りどうのこうの言うようなことじゃなくて、今の先生方の思いを聞かせてくださいという僕の単純な発想なんです。それがもし生きてくればまとめていくときに井原ならではのICT活用の大きな分野に育っていく、コンピューターばあどうのこうのということもあるけども、実は身近なメディアとして双方向の機能を持ったテレビがあるということは、これはもしうまくいけば岡山県内でも売れるし、日本国中に売れていくソフトが多分発生してくると思うん、大きな話になったけど。

以上です。これ以上言いません。皆さんで上げん言うてなら上げんでいいし。

委員（佐藤 豊君） 妹尾委員に聞くんですが、子供さんに接する機会が非常に多い今のお仕事をされとる中で、小・中学校において、特に中学校においてICTを活用した授業内容というようなことでの情報を聞かれたことがあります。

委員（妹尾文彦君） 授業内容というのは授業をどういうふうにしてるかという。

委員（佐藤 豊君） はい。

委員（妹尾文彦君） それは聞いたことがあります。

委員（佐藤 豊君） 具体的な例としてはどのようなことがあるんですか。

委員（妹尾文彦君） デジタル教科書というのがあります。教科書がデータの中に入ってます。私が一番それを使っていいなと思ったのは、生徒って教科書見てると先生のほうを見てないんです。何ページ開いてって、ここの図があるよねって、その右の図がこうこうだよって言うのを言ってるのを、教師見てないんですよ。それを前のほう、白板とかモニターに映して、こうやって、皆ここのページのやつなんだけど前見てってこうやってやるとみんなこっち見るんですよ。こここうなってるよねってこうやって説明すると、これすごいいいんですよ。それが一番だと思いますね、私は。あと、生徒が書いた回答とかをモニターに映して生徒に説明させるとかしてるんですよ。例えば、小学校でいうと、階段型になったような分の面積を出しなさいっていうのを自分はどういうふうに出したっていうのを持ってきてここをこう切ってこことここを出しましたみたいなのをみんなの前で説明したりするんです。ああいうことができるのがいいことだと思います。

委員（佐藤 豊君） ありがとうございます。我々が今回のICTを今後教材と、また充実、またその教育内容を勉強していこうという中で、僕らも現場知らんわけですよ。その中で、今方向性を出そうとしとんのはどういうニーズが学校サイドにあってそれに対して行

政としては何ができるのかという方向性に向かおうと思うと思うんです。そういったことで、まだまだ我々もそういった現場を知らない、今初めて僕らも妹尾委員が言われたことで、ああ、そういうふうな活用をされとんかというのがごく一部のことでしょうけれども知ることのような機会があって、なかなか僕らも現場で授業内容を参観日みたいなどこ行ってそういうITを活用した授業を見る機会も今までなかったし、また一人もやったことないんで、そういったことも理解しながら今回の方向性というものを見い出していかんやいけんのんじゃないかなという思いがあります。

委員（西田久志君） 済みません。基礎的なことを聞いて、これは質問をいつまでにこれは作って学校側へ提出するんでしょうか。というのが、せっかくここへ質問が出たんですからこれをもとに1つずつこうしていかないと、今のようになんかところに広がっていくと全然まとまりがつかないっていうんで、いつまでもしていいんだっいたらいつまでもしていいんですけど、ただここへせっかく質問内容出とりますんでこれに関連づけて一つに集約していったほうがいいんじゃないかなと思う。委員長としてまとめづらいんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

委員長（西村慎次郎君） 今はこの前回から出していただいた意見をもとに入れる入れない、学校に対して質問するというのを1項目ずつ選択していただくんで、それに選択していただいて、あとの集約は正副委員長に一任いただいて、今月中にといたら日にちがないですけど、できるだけ今月中にはまとめて各学校へ依頼をかけていかないと6月中とか視察までにというところでの回答はいただけないんだろうなとは思ってますし、6月下旬から7月上旬にかけて各学校へ視察に行きたいなというのも思ってますので、今週まとめたいというふうな期限は中では持ちながらなんで今日ある程度集約、項目をきれいに整理整頓するのは正副委員長でさせていただこうと思ってますが、質問事項の絞り込みについては今日ここで決定したいと思っております。

委員（西田久志君） それで、絞り込みはできそうですか。今の流れで。

委員長（西村慎次郎君） 今の順番でいけてると思います。

委員（西田久志君） いいですか。じゃあわかりました。

委員長（西村慎次郎君） 先ほどの井原放送の活用に関する質問、最終的にどうしましょうか。

委員（山下憲雄君） 聞き方が非常に難しいと思うんですけども、まずインターネットの活用というところを消していただいて、これはインターネットと井原放送は全く関係ありませんので、一応井原放送に限定する形で学校現場は井原放送を活用した教育の手法に井原放送を取り入れる考えがありますか、ありませんかぐらいで、そしたら先生も何か考えてる人、中には学校によってはあるかもわかりませんし、非常に単純に聞かないと、具体的な例

えば幾つか例を挙げてこういうことも考えられますねみたいな例を例えを挙げるとまたそこへアイデアが集中するとかかなりしますので、一般的にこの活用が考えられますかというぐらいでぽこんと置いとくのは別に問題はないと思いますけども。整理がしやすいように質問を考えたほうがいいんじゃないでしょうか。

委員長（西村慎次郎君） 家庭学習におけるインターネットの活用とか井原放送の活用についてどうお考えですかとかそんな感じですか。

委員（山下憲雄君） そうないと、例えば子供のいない家庭のほうが圧倒してるわけですね、井原放送を見る家庭というのは、現実というのはね。そこで、長時間、30分以上も時間をそのほうに向けるということについてはまた一般市民の人たちのいわゆるパブリシティーとしても問題を教育のほうに向けてしまうというのは公の情報機関としてはまたある種問題があるんじゃないかなとは思いますが、よくよくこれは検討しないといけない分野に発展していく可能性があると思いますね。

委員（三輪順治君） 方法論ね。オンデマンドもある、時間に関係なく。

委員（山下憲雄君） その辺の方法論になると先生方がそこまで今お考えになってるかどうかは、何か考える余地があると思われませんか、あるという人は例えばということで書いてくださいみたいなことでいいんじゃないですか、作ることは。

委員長（西村慎次郎君） その活用方法、何か具体案があればお知らせくださいと。

委員（佐藤 豊君） 井原放送の視聴者の状況ですね。先ほど山下委員も言われましたように、小学生、中学生がどれだけ井原放送に普段日常生活の中で接しているのかということ考えたときには、おじいちゃん、おばあちゃんとかの人がメインじゃというふうに思うんですけど、その辺のことを考えたときにはアイデアとしてはそうなんでしょうけれど、現実的にはすぐわないんじゃないかなというような気持ちを私は持ちます。

委員（三輪順治君） これ落とされても入れてもええんじゃないけど、僕は例えばこれから超過疎化における買い物支援とか或いはいわゆる交通手段の確保で、井原放送は実は双方向で余り機能使われてないんですね。今NHKなんかアンケートやってるじゃないですか、青ボタンじゃ、それでやり方は別としても井原放送にも目覚めてもらいたいし、行政としても生涯学習も含めていろんな活用方法があるんで、しかもこれから芳井じゃ美星を光ファイバーにするとかせんとか言ようし、大きな情報に向かっていくだろうと思われるんで、特に少子化だからこそそういうものを大切にして、或いは高齢化だから大切にしていくのが井原の生き残る一つのICT活用じゃねえかと思うんで、あえて教育現場が出たんで僕は言わせてもらったんです。

委員長（西村慎次郎君） 今話をずっと進めている井原放送の部分なんですけど、事前の質問事項としては上げずに、現場で必要に応じて確認していただくという方向でよろしいです

か。いかがでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（西村慎次郎君） そうさせていただきます。

それから、その次、親学の勧め、地域との教育協働に向けた取り組みということで各種ボランティア、指導補助、スポーツ・文化活動、キャリア学習、福祉サイドの支援等。

委員（三輪順治君） 補足しよう。これは要するに地域等の教育協働、要するに地域社会の中での教育ということで、今回の3番もしくは4番どっちも関係すんじゃないけど、避けて通れないだろうという課題意識持ってます。ただ、難しいことになつとりゃ口頭で聞きますけど、要するになり手がおらんとか或いはやり方がわからんとか、福祉サイド、農業でも何でもええけど今芋でも植えとるけど、いろんな意味でええ教育、地域の支えが必要なんですね、教育の現場に。その現状と課題というようなことを含めて聞きたいと。環境、教育環境一環で、そういう意味です。読み取れなんだからもっと日本語を砕けにゃいけんけど。

委員（妹尾文彦君） 私もこれと同じようなことをテーマ外として一応上げて聞いたりも考えたりもしたんですけど、聞いてみたいという意味では入れてもいいかなという思いではあります。

委員（三輪順治君） もう一回補足。これは、井原市の教育のあり方の第4期の最後のまとめのどこへ、将来に向けての提言の1番に学校と地域の協働、それから文化スポーツ活動と地域の協働、福祉と教育の協働、3点切り口があるんですけど、地域の協働というのがキーワードに入ってますんで、ぜひ聞いていただければと思います。

委員長（西村慎次郎君） どうでしょうか、含めましょうか。

委員（山下憲雄君） 含めたらいいと思いますが、この親学の勧めというのは要りませんか。

委員（三輪順治君） いや、取ってもいいです。

委員（山下憲雄君） これは取っていったいいんじゃないでしょうか。

委員長（西村慎次郎君） 親学の勧めというところは外しながら、地域との教育協働という言い方ですかね、に向けた取り組みについての質問をするということにさせていただきます。

続いて、複式学級学習へのICTやAI活用策の今後のあり方ということで、複数の方が複式学級に関する話もありましたし、26年度の時にもアンケート調査をしてるところではありますんで。

委員（三輪順治君） 補足。僕はこの複式学級という点で一番懸念しとるのは教員の気質

なんです。つまり、今でも現状ありますけども、複数年にわたる教育を1人では持てないです、はっきり言って。ですから、非常勤講師とか他の方が一緒にしょうるけど、非常に厳しくなるのはこれからそういうのが現実問題も今でも起きるとし、教育環境としていいのかどうかというのも真面目に考えへんと、ただ学校のあり方とは切り離してそれは僕は課題とするべきであろうというふうに思います。

委員（山下憲雄君） 今から訪問しようとする学校で複式学級を実行してる学校がありますでしょうか。

委員長（西村慎次郎君） 今小規模学校として、後言いますけど、青野小学校を考えてるんですけど、青野小学校は複式があったと思います。

委員（三輪順治君） あるある、しょうる。

委員（山下憲雄君） その複式学級の教科ごとで、例えば理科とか、僕は実態わからないで質問して申しわけないんですが、教科ごとに行われておるわけですね、当然。例えば、音楽を複式でやったり理科の実験のとき複式でやったりはできないですね。

委員（三輪順治君） 国語と算数。

委員（山下憲雄君） 教科によって。

委員（三輪順治君） A年度、B年度ようわからんこと書いてある。A年度、B年度。

委員長（西村慎次郎君） 3、4年生で習うべきことを2年間かけて習とられます。なんで、3年生で普通の学校で習うことを4年生で習ったり、4年生で習うことを3年生で習ったりされるケースも多分あります。2年間かけて3、4年生で例えば習う。勉強してるから他の学校とは教科書が違ふとこまでいかないですけど習う順番が違います。

委員（山下憲雄君） なるほど。そうしたときの今後のあり方というか、問題点がありますかというような質問、課題というか。

委員（三輪順治君） このIT活用の意味は、例えばテレビ会議じゃないけど大きな学校と小さな学校をテレビで結んで、ネットで結んで授業を交換する、例えばですよ、そういうふうなことも含めて複式学級における教育のあり方として多人数と意見交換できるという場を設けてあげることが教育にとって僕は必要じゃと思よんです。今みたいにアットホームはええんじゃけど、じゃあ例えばAという質問に対して答えB、いっぱいあって、それがたくさんあるほうが刺激になるし、そういう意味で例えばですよ、話が飛びやあやめますけど、そういう意味です。

委員長（西村慎次郎君） 複式学級もそうですが、少人数教育、これもメリットとデメリットがあって、先ほど三輪委員が言われたように、少人数になってくるといろんな意見、道徳教育なんかでいろんな意見、発想というのを聞き出そうとしても少人数だと意見が固まってしまっているような意見が聞けないから言われるように遠隔で一緒に授業することによって

いろんな意見が聞けるという、幅広い意見が聞けるというようなメリットはあると思います。今回視察で西条市なんかそういうバーチャルクラスっていうのもありましたけど、そういうのも参考になるのではないかなと思うんで、複式学級とか少人数学級によるメリット、デメリットっていうところの聞き方はあるかなと。

委員（三輪順治君） 教員の方は負担軽減になる。教員はおらんよになる。

委員長（西村慎次郎君） 直接ICTへどこまで結びつけた質問になるかというのはあるんですが。

副委員長（宮地俊則君） 複式学級というのは一つの大きなテーマだと思うんですけども、ですから複式学級のこれはアンケートですからわかりやすくシンプルに複式学級のところにしか聞かないわけですよ、当然ながら。

委員長（西村慎次郎君） 全校に……。

副委員長（宮地俊則君） これは全校に聞くの。

委員長（西村慎次郎君） 全校に聞いても回答をしていただけるのは複式学級を持つてる学校しかないです。

副委員長（宮地俊則君） そうすると、その現場の先生方に尋ねるわけですから、いわゆるメリット、デメリットはどういったものがありますか、難しさはどういったところでしょうか、さらにはこのICTやAIを活用できるとしたらどういったものが考えられますでしょうかと、そういったシンプルな聞き方でしたほうがいいんじゃないですかね。その現場の先生やらが複式学級を抱えているいろいろ日々思われてることであろうかと思うんです。ですから、それをシンプルに難しい点はこういったことでしょうか、メリット、デメリットも今聞き方いろいろありましようけど、さらに今言ったように複式学級でICTやAI活用されるものがお気づきの点があったらお考えをお聞かせくださいと、そういった形でわかりやすくいかないと。

委員（三輪順治君） わかりやすくすりゃ、もうちょっと言やあ、小・小連携、小・中連携。

副委員長（宮地俊則君） それはさっきあったでしょう。

委員（三輪順治君） それをITで活用する、あったかな。

副委員長（宮地俊則君） 1ページ目の一番下。

委員（三輪順治君） だけえ、そういう意味合いも含めて小学校間における、最終的には小中高連携もええんじゃけど、壁を取り除く、ギャップ、格差をなくすという意味を込めて表現をうまくしていけば意味はわかっていただけだと思います。多分な、多分な。

委員長（西村慎次郎君） 副委員長の案を採用して、それをベースに整理するという方向でよろしいですか。

委員（三輪順治君） はい。

委員長（西村慎次郎君） それじゃ、これも質問事項に入れるということにします。

その次、学校でまた家庭等で本を読む時間の確保や感想文の評価、これ補足説明ありません。

委員（三輪順治君） これは逆転の発想で、ITばあ向きようるけえ意外と読書の時間とか感想文を書かせたり、感想文に対する先生の考察といいますか、心の教育とか想像力を高めていくためにはしっかりものを考える、本を読む、読み込む、僕はITは、もちろんITもできるんだけど、これは違和感があるので口頭で聞かせてもろうて質問からは外してもろうても結構です。

委員長（西村慎次郎君） 質問から外させていただきます。

委員（三輪順治君） はい、済みません。

委員長（西村慎次郎君） その次、学習規律、基本的な生活習慣など中学校区ごとに設けてあるスタンダードのよい点、悪い点で、指針の必要性。3ページのスタンダードに関する質問と同じような内容ですね。

委員（三輪順治君） 同じような内容だと思います。集約させて。

委員長（西村慎次郎君） 集約させてもらうということで。ここは飛ばさせてもらって、続いて少子化に対応した現教育の姿の限界、教職員の負担軽減や児童・生徒のコミュニケーション力、学ぶ力の向上策、小学校の統廃合に向けた検討の必要性と市長部局を巻き込んだ地域活性化対策の必要性。学校には重たそうな質問ですけど。

委員（三輪順治君） 取ろう。

委員長（西村慎次郎君） 取るということで。

委員（三輪順治君） 提案書から取らせていただきます。これは重たい、それこそ引くわ。で終わり。

委員長（西村慎次郎君） 少子化、経済環境の変化、これはいいですか。

委員（三輪順治君） はい。

委員長（西村慎次郎君） じゃあ、これも取りますね。

それから、下段に移ります、生きる力、考える力、学ぶ力をICTの活用によってどのように引き出したらよいと思いますかという質問です。

委員（三輪順治君） どっか包含する。

委員（妹尾文彦君） これは、最初の分のところに入ると思うので、ICT機器の活用状況についてとか効果とか、効果というのはなかったでしたかね。

委員長（西村慎次郎君） 校務支援しか効果はない。

委員（妹尾文彦君） 効果という言葉を入れたらいいと思います。

委員長（西村慎次郎君） 1 ページ目の中に含めて一つの考えに集約させていただきます。

続いて、ICTの教材をどうしたらいいと思いますか。教職員の本当にしたいことを支援していきたいという思いでの質問であります。多分1 ページ目のに含めていけるかなとは思っています。いいですかね。

3つ目は、複式学級の話なんで先ほどの話に含めさせていただきます。

それから、少人数校でのPTAの負担割合の問題点についてはどういたしましょうか。

委員（三輪順治君） さっきの地域での教育協働に絡めてコンクルードしたらいいと思います。まとめたらいいと思います。

委員長（西村慎次郎君） まとめさせていただくという方向でいいですかね。

委員（妹尾文彦君） 含めたら意味が変わってこないですか、大丈夫ですかね。少人数のほうである人のPTAの負担ということについてですよね。まとめても大丈夫でしょうか。

委員長（西村慎次郎君） 多分PTAのところまで学校側が答えれんと思いますけど。

委員（妹尾文彦君） そうですか、わかりました。

委員長（西村慎次郎君） なんで、地域教育、ざっくりして、そこのかかわりをどう考えてるかぐらいで学校からの回答はできんかなあとと思います。

委員（三輪順治君） 地域が絡まにゃだめよ、これ。

委員（妹尾文彦君） わかりました。

委員長（西村慎次郎君） それから次、児童・生徒の少人数化が進む中での問題点。

どうしようかね。複式少人数学校へ、その辺へ含めてよろしいですかね。

委員（三輪順治君） はい。

委員長（西村慎次郎君） その下です。児童・生徒の一人ひとりと日常のアドバイス、激励、注意事項などについて接している時間を確保できているか。

委員（三輪順治君） これは取り上げるべきだと思いますし、かつ定量的な把握をしたいのでどの程度の時間、週に、そりゃ量的なもんがないと規模によって違うし、先生負担感、時間の確保の具体を聞きたいです、是非、これおもしろい項目ですね。

委員長（西村慎次郎君） 具体的な時間まで出してもらえるかどうかわからないんですが、希望としてはどれぐらい。

委員（三輪順治君） ざっとでいい。それも随分違うと思う。

委員長（西村慎次郎君） 入れる、これは質問に入れるということで。

次、その他に該当するかもしれませんが、市外への進学率が高いようであるが教育現場としてどのように感じているかというところ。中学校ですが。

委員（三輪順治君） これは設問者にはどなたに設問するんですか、狙いとして教育現場

が問題を感じとったらどがんせえということを期待というか考えてらっしゃるん。

委員（佐藤 豊君） 本来地場にあつてよかつた工業科とか商業科とか実業の状況が地場
にないからゆえによそへ行くとか、また新しいジャンル、時代に即応したジャンルが習える
学校に行こうとかという形で地元でそれだけのものが持てないという状況というものが顕
著に表れだしてとるんで、そういったことを今後地元の高校に進学していただくための背景を
把握して、今後の対応というものを少しでもできるんならそういった形での参考にしたいと
いう思いです。

委員（三輪順治君） 具体的には、例えば看護系とかないけど介護とかというようなニー
ズがあつたらそういうのを誘致するという意味ですか。

委員（佐藤 豊君） そうそう、誘致も。

委員（三輪順治君） 市内へ。

委員（佐藤 豊君） はい。誘致もあるでしょうけれども、科もつくってもら。昔は興
譲館高校なんか機械科があつたときには……。

委員（三輪順治君） 高校やな、高校やな。

委員（佐藤 豊君） 片山工業さんのほうからこうこう製品作ってくれというので工業科
があつたときには受注して、それを実際にやったりとかというようなことで、即、片山工業
に戦力として行った方もたくさんおつてみたいに聞いたことあるんです。そういったよう
に、地元の戦力になる高校にもなつてもらいたいしあつて欲しいしというようなことも考え
たときには、そういった中学生またその中学生の保護者の考え方というのも把握していくの
も一つの方法じゃないかなということ。

委員（三輪順治君） はい、わかりました。分野も聞いてもええんですね、どういう分
野。はい、わかりました。結構だと思います。

委員長（西村慎次郎君） どうでしょうか。その他として入れていきましょうか。

委員（妹尾文彦君） 私もこれは聞いてみてもいいことではないかと思ひます。

委員長（西村慎次郎君） とりあえず、それじゃ聞くということで、少し外れるところあり
ますが、質問するというので一応進めます。

最後、9、このページの最後です。市内幼・小・中学校の教職員の勤務状況も含めてはど
うかということで、そこはどうでしょうか。そこまで入れていくと何もかんもなつてくる
んで、これはよろしいですか。

委員（佐藤 豊君） ええよ。

委員長（西村慎次郎君） 最後のページです。

1つ目、今後W i - F i の整備が行われ、授業にタブレットが導入されることが検討され
ていますが、タブレットの導入が目的ではなく授業の道具としてタブレットを導入すること

により、生徒の学力の向上のほか、より効率的・効果的に行われるようにならないといけないと考えます。そこで、現場の教員としてはタブレット導入でどのような効果を期待されるのか、また今から導入に向けて必要なのはどんなことか伺いたいと。

委員（三輪順治君） これは1のICTの現状は教育委員会ですね、今後どういう分野で使いたいかというところで具体が出れば多分、今2と書いてある、両括弧の1、2、3と書いてあるけど、これ変わってくると思うんだけど、こん中へ吸収できるような気がしますけどどうでしょうか。

委員長（西村慎次郎君） よろしいですかね。

委員（妹尾文彦君） はい。

委員長（西村慎次郎君） それでは、2つ目、児童生徒の学力向上、生活改善のためには、生徒とのコミュニケーションも大切だと考えます。その時間を確保するためにも、先生方には時間を有効に活用していただきたいです。現在、教師の業務は多種多様となっていると思います。今後も教育現場では、さらなる新しい取り組みが取り入れられてくるのではないかと考えられるため、ますます時間の有効活用ということが必要となると考えます。そこで、今ある業務の中で、効率化のために不要な業務、もしくは教員以外でもできる業務、効率化のために導入して欲しいシステムなどはあるか伺います。

委員（三輪順治君） これは、1の3とそれから2のさっきのぽつの下から3番目、含まれると思いますんでどうでしょうかね。入りますかね。

委員（妹尾文彦君） いいと思います。

委員長（西村慎次郎君） じゃあ、また1ページもしくは2ページの内容に集約して質問に含めていくということにさせていただきます。

それから、3つ目、学習規律の徹底と学力向上には関係があると考えます。先日、執行部からの説明でもそう伺いました。岡山県の学習指導スタンダードにおいても学習基盤を確立するための規律について述べられています。そこで、学校でこの学習規律を徹底するために何か工夫をされていることがありますか。また、内容や効果についてはこれで十分であると思われませんか。2ページ目のところにも入れたんで、この辺含めて学習規律に関する質問は1個入れようということによろしいですか。

委員（三輪順治君） はい。

委員長（西村慎次郎君） それから、英語教育に関して、どのようにICTを活用しているのでしょうか。活用、1ページの2の活用状況についての中の具体的に英語とかその下のプログラミング教育とか、プログラミング教育はまだ始まってないかもしれないけど、具体的にここへ教科の名前を入れて聞く、どがなでしょう。

委員（妹尾文彦君） 私としては具体的に英語が教科として聞きたいのは思いはあるんで

すけど、含めていただいて大丈夫です。

委員長（西村慎次郎君） 1 ページ目の 2 に。

委員（三輪順治君） 2 の 2 じゃな。

委員長（西村慎次郎君） 含めて確認させていただきます。

最後、テーマ外ということですが、これは先ほど 2 ページ目の協働地域教育の中に含めて、この辺集約して質問するという方向でよろしいですか。

10 項目ぐらいにまとめられたらとは思いますが、今皆さんにご意見いただいて整理した事項をもとに正副委員長に一任いただいてまとめさせていただきます。それを皆さんにご確認いただいて、学校側へアンケートのお願いをさせていただくという進め方でよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（西村慎次郎君） では、そのように決定いたします。

それでは次に、今回の視察先の学校選定について前回の委員会で正副委員長に一任をさせていただいております。今回は、平成 26 年度に実施した学校を除くとともに、児童数によって規模などを考慮して候補と考えている小学校は青野小学校、稲倉小学校、高屋小学校、西江原小学校、芳井小学校、小学校を 5 校選んでます。中学校は井原中学校と美星中学校ということで、小学校でいくと青野が小規模、稲倉が 100 人規模、小規模に値するかなと、高屋小学校、芳井小学校もちょっと少ないですけど、高屋小学校は中規模、西江原小学校が 1 学年 2 クラスがある学年があるんで西江原小学校を大規模という位置づけで考えてます。中学校では一番生徒数の多い井原中学校と一番生徒数の少ない美星中学校を選んでおります。この学校をもとに執行部と調整をさせていただきたいと思っておりますが、視察先について皆さんからのご意見を伺います。

〈異議なし〉

委員長（西村慎次郎君） 以上で所管事務調査についてを終わります。

〈行政視察について〉

〈視察先への事前質問について協議〉

〈議会への提案について〉

〈回答案について協議〉

・ 宿泊所について

〈決定〉

〈その他〉

〈なし〉

委員長（西村慎次郎君） それでは、ないようでございますので、以上で総務文教委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

○議会への提案内容

(総務文教委員会)

回収場所	記入日	内 容
郵送	4月11日	<p>宿泊施設の整備について（教育委員会） 毎日ご苦労様です。</p> <p>ここに手紙にしましたのも、体験者でなくては解らないことも有りますが、以前井原市の宿泊設備についてお伺いをしましたところ、児童会館、経ヶ丸、美星、など有るので宿泊にはそこを利用して下さいとの事でした。児童会館につきましては、二段ベッドで寝ることは出来ますが、敷布団と毛布一枚です。春先、寒いときには暖房もなく寝るには余りにも寒いのが現状です。冷暖房装置をつけてもらうようお願いをしましたが、寒いときは誰も泊まらないから、冷房だけですとのことで、いまだにそのまま、しかも冷房も聞かない部屋が有り、不親切極まりない井原市です。担当部署でやる気がないのか、考え方の相違なのか良く解りませんが、設備をしてないから宿泊する人がいないと私は思うのですが、わたしの考えが間違っているのでしょうか。また経ヶ丸においても同じで、炊事、風呂、洗濯、寝具全く整っていないで、それを宿舎としているようで話になりません。</p> <p>私は担当部署、或いは市の幹部の方たちが一度体験して何が必要か、どうすれば年間を通して人を井原に呼んで来れるか、検討してもらってはいかがかと思えます。この時季児童会館でも現状で泊まって暖かくぐっすり眠れるかどうか。何年か前に市長宛にこのようなことをお願いしたことが有ります。前述のような回答でした。</p> <p>私は、現状では、市体育館、グラウンド等利用者が増えて来ているので、体育館の南側の駐車場の上に宿泊所食事をするところ（日常は食堂として軽食喫茶にして）を作れば良いのではないかと思います。100人規模の大きさで20人規模に区切れるようにして、人を井原に呼び寄せるようにすればと思っております。このことも前に申し上げましたが一蹴されました。</p> <p>人口減少に有る中で、人を寄せる事を考えないと人は来ないと思えます。</p> <p>何方でも構いません、体験していただいて、どう云うのが宿泊所なのか考えていただきたいと思っております。他県施設なども見学研修していただきより良いものを作って行ってもらいたいと思えます。これが緊急事態の時にも役立つ場所となるかもしれせん。</p> <p>やる気なさが余りにも腹が立ってお手紙にしました。一度皆様で検討してみてください。大変お忙しいと思えますが、井原を思っているものが、ここにもいるのかと思って考えてやって下さい。</p>

《執行部からの回答》

スポーツ課回答

市内のスポーツ施設は、休日等の利用は多いものの平日の利用は、まだまだ低い状況にあることから、費用対効果を考慮すれば、宿泊施設の整備は困難であると考えます。

生涯学習課回答

生涯学習課所管の青少年研修センターにつきましては、研修などで宿泊が必要な団体にご利用いただいております。平成29年度の利用実績を見てみますと、4月から12月までで11団体、265人の利用がございました。

ご指摘のありました寝具や空調につきましては、利用状況等を勘案し計画的な整備を進めてまいりたいと考えます。